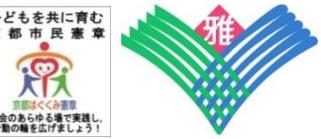


下京雅学校だより

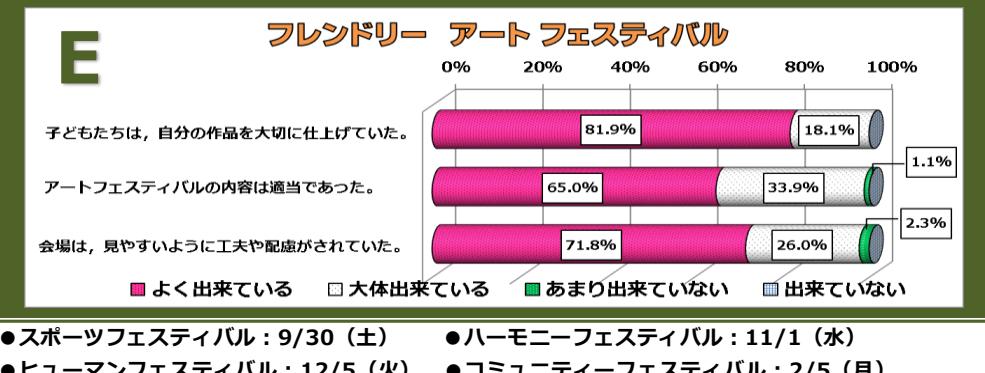
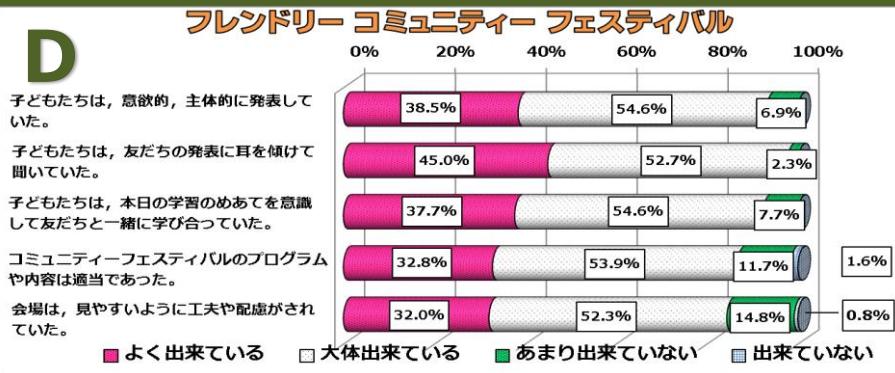
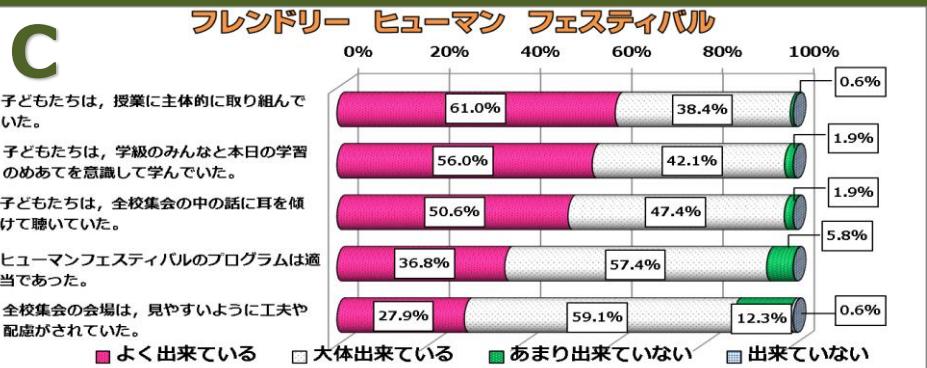
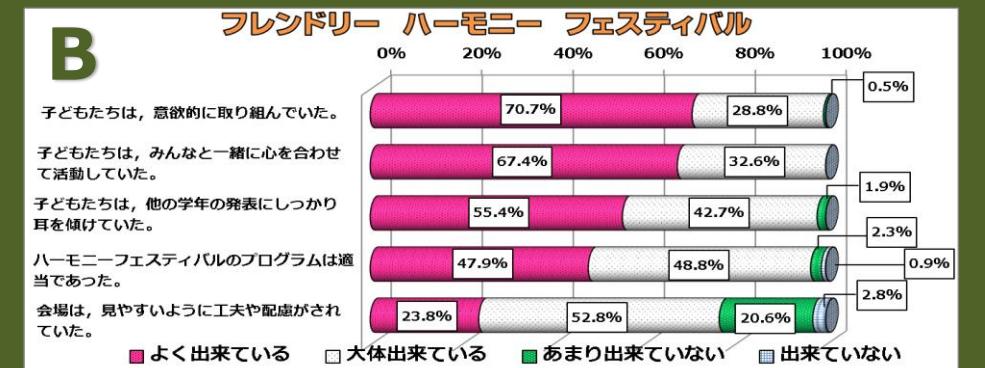
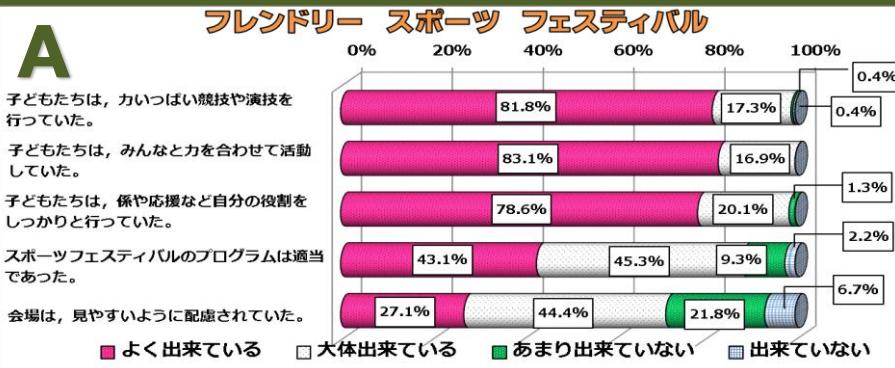
~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

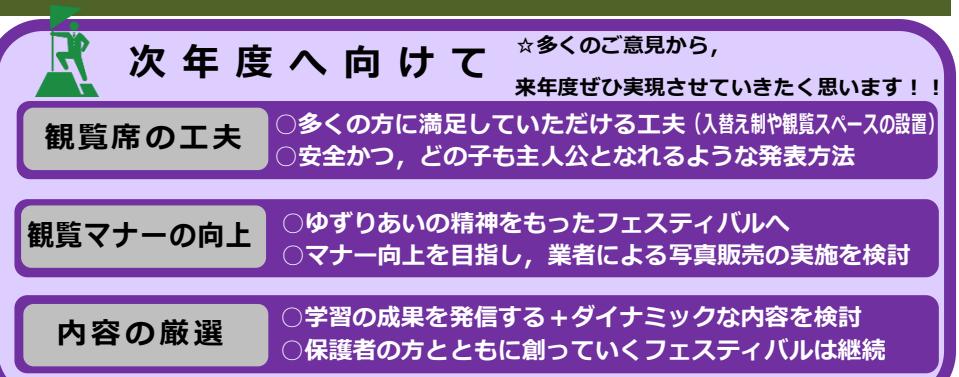
さて、本年度、【下京雅五大フェスティバル】と称して、五つの大きな行事を進めてきました。その都度いただいたアンケートの集計結果とその考察をお知らせいたします。多くの方々から、お褒めの言葉、激励の言葉とともに、来年度につながる貴重なご意見をいただきました。これらのご意見を生かし、平成30年度に向かっていきます。



京都市立下京雅小学校
平成30年3月



●スポーツフェスティバル：9/30（土） ●ハーモニーフェスティバル：11/1（水）
●ヒューマンフェスティバル：12/5（火） ●コミュニティフェスティバル：2/5（月）
●アートフェスティバル：2/28（水）、3/1（木） <平成29年度 フェスティバル日程>



子どもたちの姿への評価について

「子どもたちが意欲的、主体的な姿で取り組んでいたか」また、「みんなと力を合わせて」や「他の子の発表に耳を傾けていた」などの友達との関わりを聞くものについても、肯定的な意見をいただきました。このようなことから、子どもたちの姿に対しては、おおむね満足していただけているのではないかと考えています。しかしDについては、「よく出来ている」と回答した割合が他よりも低い結果でした。原因としては、

○体育館という場で、自分の思いや考えを表現することに抵抗があったこと
○自信をもつことができにくかったため、声の大きさに課題が見られたことなどが考えられます。運動（スポーツ）や芸術（ハーモニー・アート）のみならず、探究して学んだことに対して自信をもって表現できる下京雅の子に向けて、日々の授業を大切にしていきたいと思っています。

＜自由記述の抜粋＞

A:「一人一人が全力を出した競技、みんなで創り上げた演技、素晴らしい。」
B:「きれいな歌声で、一生懸命取り組む姿に目頭が熱くなった。成長を感じた。」
D:「子どもたちだけではなく、保護者も一緒に学ぶよい機会となった。」
D:「下級生と上級生が一緒に発表し合うことが素晴らしい。」
E:「一つとして同じもののがなく、それぞれの思いがストレートに伝わってきた。」

フェスティバルの内容、会場の工夫について

フェスティバルの内容について、B・C・Eにおいて、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が、約90%と高い数値でした。内容については、「学習で学んだことを発信する場」ということを大切しました。例えば、Aであれば、「体育科の学習で学んだことを表現」という形で学習とフェスティバルをつなげて進めてきました。特別な時間をたくさん使って創り上げるフェスティバルではなく、授業内容が中心ですので、保護者の方の中には、統合前までの各校の取組の方が、大掛かりで見ごたえがあったと感じられた方もいたかと思いますが、ご理解ください。しかし、せっかくの五大フェスティバルです。やるからには、単なる発表の場であってはもったいないと思っていました。子どもたち一人一人がキラキラ輝くことができる内容の厳選と充実を図っていきながら、よりよいものを創り上げていきたいです。

会場の工夫については、厳しくも温かいご意見をたくさんいただきました。特にAやBでは、「あまり出来ていない」「出来ていない」と否定的に回答した割合が約25%であり、次年度に生かしていくと強く考えさせられました。多く寄せられた意見を以下にまとめました。

○見るスペースが少なかった
○長椅子を出してほしい
○三脚を立てられるとゆずつもらえない
○ トラックが狭い
○マナーを守っていない保護者が多い
○入替え制がよかったです
○最前列の子どもが見えない
○演奏する子どもを台の上に立たせてほしい

全てのご意見を実現させることは難しいですが、これらの意見を校内で検討し、プロジェクトチームを立ち上げ、次年度、今年よりもパワーアップしたフェスティバルにしていきます。

全 体 を 通 し て

統合して新たに取り組んだ【下京雅五大フェスティバル】。運動会を「スポーツフェスティバル」、音楽発表会を「ハーモニーフェスティバル」、人権学習授業参観・懇談会を「ヒューマンフェスティバル」、学習発表会を「コミュニティフェスティバル」、作品展を「アートフェスティバル」とし、全てのフェスティバルには、「フレンドリー」という統合を象徴する言葉を付けて進めてきました。

これまでとは、名前も取組内容も少し異なる形で進めてきたため、戸惑われたり、学校側のねらいが伝わりにくかったりした保護者の方々もおられることでしょう。

多くの保護者の方々からの貴重なご意見を、二年目、三年目、そして、今後の下京雅の伝統を創っていく礎として受け止め、生かしていくことを思っています。